

『ライトノベル大全』の刊行によせて

ライトノベルという小説ジャンルが誕生してから、およそ半世紀の時が流れました。この中高生を中心に支持されてきた物語の形式は、今や一時の流行ではなく、日本の出版文化、ひいてはポップカルチャー全体にとって不可欠な重要な一翼を担っています。

ライトノベルの定義は多岐にわたりますが、本書ではその特徴を「アニメや漫画のイラストを積極的に採用し、キャラクター性と物語性を深く追求した小説」として捉えます。

1980年代にその萌芽を見たライトノベルは、当初は特定の読者コミュニティの中での楽しみでしたが、時代の変遷とともに、日本のメディアミックス戦略の中核を担う存在へと華麗な成長を遂げました。ゲーム、アニメ、コミックスといった多様な媒体との強力な相乗効果によって、その魅力は日本国内に留まらず、世界へと広がり、多くの熱心なファンを魅了し続けています。

結果として、ライトノベルは、日本の文化的アイデンティティの一部として、現在のオタク文化やサブカルチャーの先駆者として確固たる地位を築き上げてきたのです。常に新しい表現と試みを探求し、時代ごとのテーマやキャラクター設定を提供することで、物語の最前線を走り続けてきました。

しかしながら、一般文芸作品と異なり、ライトノベルというジャンルには、その功績を歴史的・文化的視点から讃える恒常的な文学賞が存在しないという現実があります。数多くの傑作が誕生しながらも、読者の世代交代とともに、その作品群が体系的に整理されることなく、次第に忘れ去られていくことが、このジャンルの避けられない宿命となってきました。

この類まれな特徴は、作家と読者の新陳代謝を促進し、ライトノベルの隆盛を築く原動力となってきたことは間違いありません。しかし、その一方で、歴史的な全体像を把握することや、時代を超えて読み継がれるべき「隠れた名作」の発掘と再評価を極めて困難にしています。

近年、数多くの新人賞は設立されていますが、各年ごとに優れた作品を顕彰する「名作を記録する」文学賞のようなものは未だ確立されていません。他の小説ジャンル（一般文芸、ミステリ、SFなど）と比較すると、その文化的な価値や、長きにわたる実績は現状、著しく過小評価されていると言わざるを得ません。

このような状況に強い憂いを抱くとともに、このジャンルが誕生から半世紀という大きな節目を迎えた「今」こそが、その豊かな歴史を精緻にまとめ上げた書籍が求められる時だと強く確信するに至りました。その熱い思いを結実させるために、本書『ライトノベル大全』の企画・編纂を推進いたしました。

本書実現にご協力いただいた皆様へ

本書の完成は、決して発起人一人の力で成し得たものではありません。

ライトノベルに対する深い愛情と、その未来に対するさまざまな思いを共有してくださった編集者、文芸評論家、書評家、ライター、そして最前線で活躍するライトノベル作家の皆様の、温かい、そして熱意のこもったご協力によって、このプロジェクトは初めて具体的な形を成すことができました。この企画は、ライトノベルを単なる流行ではなく、文化の一部として確立し、その意義を後世に伝えるという使命を共有する、多くの心強い仲間たちの支えの上に成り立っています。

皆様の貴重な知見と献身的なご尽力に対し、ここに心より感謝申し上げます。

『ライトノベル大全』に掲載された作品の数々は、読者である皆様の懐かしい青春時代の読書体験を鮮明に思い起こさせるでしょう。また、まだ出会っていない時代を超えた名作との新たな邂逅の契機となることも、強く期待しております。

そして、メディアミックスという言葉が一般に浸透するずっと以前から、日本のサブカルチャーの一端として進化を遂げてきたこのジャンルの変遷を辿る、壮大な歴史の旅を皆様に提供できれば幸いです。

本書が、ライトノベルの歴史的な重みや、日本の文化全体に与えた影響力を再評価し、このジャンルに対する新たな深い理解を深める機会となることを願い、筆を置かせていただきます。